

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820007

研究課題名(和文) アリストテレスの物体概念と運動概念の研究

研究課題名(英文) Aristotelian Concept of Physical Body and Change

研究代表者

松浦 和也 (Matsuura, Kazuya)

東京大学・人文社会系研究科・助教

研究者番号：30633466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：アリストテレスの自然哲学には四元素説や質料形相論に還元されない物体観、たとえば「2つ以上の物体は同じところに存在しない」や「感覚的物体は分割可能である」が混在していること、これら物体観をギリシア自然哲学の多くが共有していたことを確認した。また、ギリシア自然哲学の展開は物体の分割性にまつわる問題の発見と解決案の提示によって織りなされた、という発展史的整理が示唆された。それらの問題を概説的に言えば、物体を分割しても残る素材的原理は何か、その原理はいかなる特性を持つか、その原理から物体が生成する規則はどのようなものか、そして原理から物体に熱や色などの諸性質はどのように発生するか、という問いである。

研究成果の概要(英文)：This research confirmed that Aristotelian concepts of physical body do not consist only of his unique doctrines, namely, four elements theory or hylomorphism, but of other doctrines such as that "there is no two more bodies in the same place" or "any physical bodies are basically dividable". Importantly, these doctrines are the ones which presocratic natural philosophers share. This fact may suggest that the history of Greek natural philosophy is waved by discovering conceptual problems on the divisibility of physical bodies, and submitting solutions for these problems. These problems are, generally stated, a) what is/are the principle(s) which always remains after dividing any physical body, b) what characteristic the principle(s) have, c) what is the system which generates any physical body from the principle(s), d) how physical bodies has its essential properties, such as heat and color.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 哲学・倫理学

キーワード：哲学 科学史 ギリシア哲学 西洋古典学 アリストテレス ソクラテス以前 物体 運動

1. 研究開始当初の背景

現代の最先端の哲学研究において自然科学の研究手法および結果を無視することはほぼ不可能だろう。たとえば、最先端の倫理学研究において脳科学がもたらす知見を完全に無視して理論を構築することはもはや考えられない。では、自然科学と哲学は今後どのように関係しうるだろうか。そして、どのような関係が健全なものと言えるだろうか。このようなアクチュアリティのある問いに答えるための補助線として、哲学と自然科学が完全に分化していなかった古代ギリシアの自然哲学の再検討は一定の役割を果たしうると思われる。

さて、古代ギリシア自然哲学の中でも着目すべきはアリストテレスのそれである。その理由は、彼の体系内に見られる哲学的思考と自然科学との強い結びつき、哲学と科学に与えつづけた歴史的影響の強さ、残存テキストの多さ、そして昨今、彼の自然哲学の再検討が欧米圏で盛り上がりを見せていること、などである。

ただし、アリストテレス研究は単にアリストテレスの哲学体系のみの研究に終わるものではない。彼の哲学体系は、先行するソクラテス以前の哲学者の批判の上に成り立っており、それゆえ、アリストテレスの自然哲学の再検討は、同時にソクラテス以前の自然哲学の再検討でもある。

2. 研究の目的

本研究「アリストテレスの物体概念と運動概念の研究」はアリストテレスの『自然学』や『生成消滅論』のテキストに緻密な文献学的分析を行い、ひとつひとつの論点を再構成することを通じて、彼の物体概念と運動概念を明晰化することを主要な目的とする。この目的は、ソクラテス以前の哲学者に対するアリストテレスの批判から、ギリシア自然哲学が全般的に持つ物体概念と運動概念を析出することへとつながる。ただし、本研究は単なる哲学史上あるいは科学史上の成果を得ることで満足するものではない。本研究が目指す最終地点は、古代ギリシアの自然哲学の見地から今日的な意味での自然科学と哲学との関係の特徴を浮き彫りにすることによって、現代の自然科学と哲学がより一層の生産的交流を続けていくためのひとつの知見を提供することにある。

しかしながら、本研究はアリストテレスの自然哲学を現代の自然科学への対比項としてのみ扱い、アリストテレスの自然哲学やギリシア自然哲学の知見を現在の自然科学に対するアンチテーゼとして提示することも、彼らの自然哲学の応用可能性を模索することも目指すものではない。だが、それゆえに対比を正確明晰に行うために最も重要なス

テップは、アリストテレスの物体概念と運動概念の全体像をテキストの文献学的読解に基づき可能な限り正確に描写することである。

3. 研究の方法

本研究の実質的な作業はアリストテレスのテキスト解釈と再構成に充てられた。特に本研究が着目するのは、a)初期ギリシア哲学者の見解に対するアリストテレスの批判とb)論理の飛躍が見られるテキストである。a)は主にアリストテレス哲学の特徴を際立たせる資料として扱われてきた。それに対し、本研究はアリストテレスが批判しなかった論点を強調することとなった。なぜなら、批判されなかった論点はアリストテレスとギリシア自然哲学者が共有する運動観もしくは物体観だと推測されるからである。b)に関しては、そのテキストに埋没した前提を分析と解釈を通じて発掘することを試みた。ここから、アリストテレスと初期ギリシア哲学者が共有する見解が輪郭を現してくることとなった。

古典研究はテキストに基づく実証性を欠いては成立しないが、本研究は実証性の確保に手の込んだ手順を踏むこととなった。なぜなら本研究は、検討するテキストに書かれている内容自体を明確な証拠として用いえないからである。それゆえ、テキストの論理構造の分析、他著作からの論点の補強、既存の解釈の批判検討、ギリシア語テキスト自体の検討作業を行った上で、議論の復元候補を挙げ、復元された議論とアリストテレスの体系との整合性を確認し、初期ギリシア自然哲学からの影響関係の確認、という手順を踏む必要があった。

4. 研究成果

『自然学』第3、4、8巻の文献学的読解から自然哲学体系における鍵概念を抽出する調査により、アリストテレスの自然哲学解釈の鍵は次の4つの課題にあることが判明した。1) <能動 受動>関係の再調査：作用を受けるとき受動側は必ず物的な変化を伴うのか、2)「大きさ」概念と物体：「大きさを持つもの」という表現は必ず「物体」を指示するのか否か、3)ギリシア語の「感覚的なもの」と物体：「感覚的なもの」という表現はいかなる文脈で物体と同一視され、いかなる文脈ではそうではないのか、4)「性質変化」と「移動」の関係：アリストテレスは運動を4種に分類するが、そのうちの性質変化はミクロなレベルでの物体の移動を必ず伴うのか否か。

また、アリストテレスの『自然学』第4巻に潜む物理世界観を取り出すために、同箇所

を主要検討対象とするベルクソンの'*Quid Aristoteles de Loco Senserit*'に対し、アリストテレス解釈としての妥当性を検討した。その結果、ベルクソンは、アリストテレスの場所論を空間論として読むという読解方針を採用した上で、古代原子論における「空虚」は「何もない空間」と同値だという古代原子論解釈を前提することが明らかとなった。だが、古代哲学研究の立場からは古代原子論の空虚概念は空間を含意しない懸念が表明されており、また、アリストテレスの自然哲学も空間概念を必要としない体系であることが示唆された。もしこの示唆が正しいのであれば、アリストテレス以前のギリシア自然科学者にも、物体の運動変化には空間を要する、言い換えれば空間の中であらゆる物体が運動変化する、というモデルは念頭になかったことになる。

他方、ギリシア自然哲学全般における素材的原理（アルケー）と物体の関係をソクラテス以前の哲学者にまつわる資料を基に解析を試みた。その結果、ギリシア自然哲学の展開は、物体の分割性にまつわる問題の漸進的発見と解決案の提示で織りなされている、という発展的に捉えることが可能であることが示唆された。その問題とは、1) 物体を分割後に最終的に残るもの、換言すれば物体のアルケーとは何か、という模索から始まり、2) アルケーはいかなる特性を持つか、3) アルケーから物体が発生するプロセスはいかなるものか、4) アルケーから熱や色といった物体の属性はいかに発生するか、という問いである。

ただし、以上の示唆の妥当性は、アリストテレスが提示したソクラテス以前の哲学思想理解が概ね正しいと仮定するという読解方法の正当性に依拠する。実のところ、昨今のソクラテス以前の自然哲学研究ではオリジナルの思想を抽出することに専念するあまり、プラトンおよびアリストテレスによる報告や分析を資料として軽視ないし除外する傾向がある。しかし、この傾向は、ソクラテス以前の哲学思想を彼らがわれわれの期待以上に正確に咀嚼していた可能性を軽んじており、そもそもソクラテス以前の哲学に関する資料を執筆した筆者の大部分はアカデメイア派およびペリパトス派的哲学思想の影響下にある人物であるという事実を無視している。ただし、アリストテレスによる彼らの理解が正しいか否かも、それ自身実証すべき方法論的前提である。そのための試みのひとつとして、この前提を仮説的に採用した場合におけるタレスをはじめとするミレトス学派の思想展開の整理を試みた。その結果のひとつが以上の示唆であるが、他方、ソクラテス以前の哲学思想研究における方法の確立と、その妥当性の検証が新たな研究課題として立ち現われることになった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

松浦和也、ベルクソンとアリストテレスの間隙—*Quid Aristoteles De Loco Senserit*をめぐって—、東京大学人文社会系研究科『論集』32、査読無、pp. 10-23、2014
松浦和也、書評: Roark, T. *Aristotle on Time: A Study of the Physics*, *Studia Classica* 4、査読有、(印刷中)

Kazuya Matsuura, *Doxography in the Milesian School*, 第8届東方三校青年学者哲学会議、査読無、pp. 12-22、2013

松浦和也、アリストテレスの無限大否定論、査読有、西洋古典学研究会論集 21、pp. 2012

松浦和也、アリストテレス『自然学』第3巻第5章の物体概念、*Studia Classica* 3、査読有、pp. 91-99、2012

〔学会発表〕(計4件)

松浦和也、ミレトス学派再考、第1回 PAP研究会、熊本大学、2014年02月21日

Kazuya Matsuura, *Doxography in the Milesian School*, 第8回 BESETO 哲学会議、北京大学、2013年10月12日

松浦和也、ベルクソンとアリストテレスの間隙—*Quid Aristoteles De Loco Senserit*をめぐって—、ベルクソン哲学研究会、京都大学吉田キャンパス、2013年03月31日

松浦和也、特定質問: 中畑正志『魂の変容—心的基礎概念の歴史的構成』第1章、科学研究費補助金・基盤研究(B)23320069プロジェクト書評会、慶応大学日吉キャンパス、2013年02月09日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
特記事項なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松浦 和也 (MATSUURA, Kazuya)
東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号：30633466

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：